

# 確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立福泉南中学校  
校長 中島 寛

## 中学校区におけるめざす子ども像

豊かな心で人と協力し、将来の夢の実現に向けて努力する子ども

## 令和7年度 重点目標

知徳体の調和のとれた心豊かでたくましい人間の育成 ～ゆめや目標に向かって 自ら未来を切り拓くことのできる生徒の育成～

### 「学び」の現状～仲間とともに学びあい、活用できる知識を習得する～

毎年チャレンジテストにおいて、本校生は特に国語・数学で中央値が大阪府値を下回っていることが大きな課題であった。小中連携での情報交換の際に、これが小学校からのつまずきが中学校でも継続していることが解明された。このことを受けて、学力低位層を中心に各教科で基礎学習にあたる部分を復習しながら学力の向上を目指し、同時に中学校での学びを効果的に習得できるようグループでの学習を進め、中・上位層の学力向上も図っていきます。また、教科学力の向上だけでなく、修得した知識を正しく、また的確に使えるよう、道徳や総合的な学習にも力を入れ、生徒自身が「主体的で深い学びの推進」「集団の中で適切に意見表明できる力をつける」「修得した知識を正しく使い、社会に役立てる」「生徒自身が地域の一員として、地域活動に積極的に参加する」といったことに積極的に関わっていきける姿勢を醸成していく。

### 「健全な身体と心の育成」の現状

学校関係者評価者から（年度末）本校生への学校アンケートの結果において、「学校に行くのが楽しい」に対する肯定回答率が毎年上昇しているところである。令和6年度も、その傾向は上昇率が大きいものであった。学校という場所が、手段生活を通じて友人たちと対人関係を育む貴重な機会であると同時に、心身の健康の向上に良い影響を強く与える場所であると認識されていると考えられる。今年度も、引き続き道徳や総合的な学習での人間関係づくりに重点を置き、健全な肉体と心の育成並びに積極的な生徒指導によりいじめの防止を図っていく。不登校生徒への対応については、生徒の気持ちに寄り添いながら傾聴を重ね、保護者との連絡も密にしながら関係構築に努めていく。生徒の健全な身体と心の成長では、運動の機会を徐々に増やすと同時に、成長期に適切な負荷の運動を取り入れ、運動することへの喜び・体力の向上・健康的な生活習慣の確立に努めていく。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～1月)	達成状況(年度末)			
								自己評価	学校関係者評価		
確かな学び	基礎基本の定着	学力低位層への継続的な指導及び教育の質の向上	<p>数で少人数授業を行い、生徒の理解力向上に努めたい。</p> <p>●グループ学習を展開し、お互いに聴き合い教える活動の向上に努める。</p>	<p>チャレンジテストで各教科中央値と昨年度府平均との差を縮める。</p> <p>学力プロフィール等で思考・判断での理解度向上を目指す。</p>	<p>チャレンジテスト</p> <p>アンケート等</p>	<p>2月～3月</p> <p>2月～3月</p>	<p>○ 3年生は、前年度より無回答率が減少し、低位層も正答率上昇が見られた。</p> <p>○ 学校全体でグループでの活動を導入し、聴きあい教えあう活動の研修と実践を行った。</p>	◎	<p>・授業アンケートにおいて、生徒からの「授業がわかりやすい」というポイントが4年連続上昇している。</p>	◎	<p>・「わかりやすい授業」を共通目標として、職員が経験にこだわらず協力している。成果が出ている。</p> <p>○</p> <p>・学校アンケートの結果において、「学校に行くのが楽しい」に対する肯定回答率が毎年上昇していることが素晴らしいです。</p> <p>・グループ学習を展開し、お互いに聴き合い教えあっている。→非常に素晴らしい。</p> <p>・先生同士が連携を大切にされ、先生たち同士の授業力向上勉強会の成果の結果だともいいます。</p>
	授業改善	「学びのコンパス」を活用した主体的・対話的で深い学びの実現 「堺STEAMブック」を活用して予測困難な社会へ対応 ICTの効果的活用によりSociety5.0に対する的確に対応	<p>研修委員会を中核とした校内研修の充実</p>	<p>研修委員会と学力向上委員会の連携による、授業の相互参観や指導案作成力向上。</p>	<p>年度末反省</p>	<p>3月</p>	<p>○ 年6回の大小公開授業研究と教員同士の授業参観で、授業力向上を図った。</p>	◎	<p>・大公開授業・小公開授業の定着による生徒の活動量の多い授業づくりの定着</p>	◎	<p>・あきらめず粘り強くサポートを続けていきたい。低学力層への温かな関わりと、日々の積み重ねのプロセスを認めるコミュニケーション、結果に対するポジティブな声掛けで、内面的にも目に見える形でより成長に繋がるサポートしていただきたい。</p>
			<p>●1人1台のパソコンにより、ドリルコンテンツなどを活用し、個別最適な学びを推進する。</p> <p>●授業主題を工夫し、主体的で対話的な深い学びにより意見交流活動を組織的に取り入れる。</p>	<p>教員がTeamsを使用するなどタブレットの効果的活用を可能とする。</p> <p>無回答率を前年度より少なくする。</p>	<p>アンケート等</p> <p>チャレンジテスト</p>	<p>2月～3月</p> <p>2月～3月</p>	<p>○ 生徒用PCを積極的に使用し、全授業で探究的な学びに活用した。</p> <p>○ 学力調査プロフィールで、主体的で対話的な学びの数値が高くなった。</p>	◎	<p>・研修担当教員と学力担当教員が連携した、授業力向上への取組で、全教員が同じ方向性をもって取り組んでいた。</p> <p>◎</p> <p>・無回答率の上昇(平均約2ポイント)</p>	◎	<p>・学校群による小中連携による授業の改善に期待します。無回答率の上昇も良い効果の現れだと思えます。</p> <p>・各教科を、その担当の教諭に任せきりにせず、学年全体で見守っていくことが大切だと思えます。</p>
豊かな心・健やかな体	心の教育	教育活動全体を通じた人間教育の推進	<p>年間計画に基づき、計画的継続的に道徳教育を推進する。</p>	<p>道徳教育を各学年で適正な時間数を行う。</p>	<p>授業記録</p>	<p>2月</p>	<p>○ 各学年で、年間授業時数分を必ず実施し、道徳心の向上を図った。</p>	◎	<p>・年間授業計画どおり道徳教育を実施</p>	◎	<p>・学力の2極化精神的な未熟さ、規範からの逸脱について、規範遵守・倫理観の2極化が背景にあるのではないかと。校内での過ごし方、共通ルールについて生徒同士で考え合い</p>
			<p>●こころアンケートなどによるいじめの防止・早期発見・早期解決を行う。</p>	<p>いじめ発見後、迅速で適切な指導で半年以内に解決を行う。</p>	<p>こころアンケート 問題行動調査</p>	<p>学期ごと 3月</p>	<p>○ 各学期に、いじめ防止のこころアンケートを実施し、教育相談より生徒の悩みを傾聴した。</p>	◎	<p>・こころアンケート(いじめ発見・防止)アンケートを各学期で実施、発見した懸念事案への迅速な対応、並びに教育相談による生徒の</p>	◎	

